

編 集 後 記

2023年5月8日、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類相当から5類に移行した。これに伴い、コロナ禍で自粛要請されてきた社会活動が復活し、街は以前の活気を取り戻してきた。クラシック演奏会についても、ベートーヴェンイヤー（2020年）には中止が相次いだ。ラフマニノフ生誕150年にあたる2023年には海外の著名な指揮者、オーケストラ、ピアニストが来日し、さまざまな演奏会が開催された。杏林大学管弦楽団定期演奏会では教え子達の素晴らしい才能に感銘を受けた。藤田真央さん、辻井伸行さん、クラウス・マケラさんとオスロフィル、横山幸雄さんの名演奏に魅了された。さらに闘病のため演奏活動を中止していたスタニスラフ・ブーニンさんの復帰コンサートでは、心の琴線に触れる音色に勇気づけられた。

杏林医学会総会も4年ぶりに対面で開催することができた。医学部新講義棟にて若手医師や保健学部学生を中心に44演題の口頭発表があり、活発な議論が繰り広げられた。杏林大学に在籍する研究者の貴重な交流の場ともなり、対面開催のメリットを改めて実感した。杏林医学会市民公開フォーラム、杏林医学会市民公開講演会も対面で開催された。

第54巻には原著論文・症例報告8編、総説3編が掲載された。杏林医学会雑誌は、大学院生の研究論文はもちろん、学生が筆頭著者として研究成果を発表することも、指導教官との共著の形であれば可能である。杏林大学での研究成果を世界に発信するために本誌をご活用いただければと願っている。

特集では、照屋浩司編集幹事が企画された「医学部基礎医学系教室の最前線」シリーズで顕微解剖学、法医学、病理学教室が取り上げられた。基礎医学系教員の教育・研究へのパッションが感じとれ、臨床とのつながりや社会貢献についても学ぶことができた。2023年に新設された保健学部リハビリテーション学科（理学療法学、作業療法学、言語聴覚療法学）の紹介もタイムリーになされた。看護部と他職種との情報交換の場である「杏林メディカルフォーラム」の目次掲載も始まり、病院職員の医療に対する真摯な姿が感じとれた。

杏林医学会では若手会員の研究活動奨励や学生のリサーチマインド育成のため、表彰・研究助成金制度を設けている。今年度は杏林医学会優秀論文賞2件、杏林医学会研究奨励賞5件、杏林医学会学生リサーチ賞8件、杏林医学会研究助成金4件が採択された。詳細を受賞報告として掲載した。

最後に、本巻にご執筆いただいた皆様に御礼申し上げるとともに、会員の皆様におかれましては、杏林医学会の学術支援活動に対し引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(M.N.)

編 集 委 員

(長) 照 屋 浩 司

跡 見 友 章 阿 部 展 次 今 泉 美 佳

井 本 滋 岸 野 智 則 長 島 文 夫

長 瀬 美 樹 根 本 康 子 森 秀 明

渡 邊 衡 一 郎

杏林医学会雑誌 第54巻 第4号

URL : <http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/kyorinms>

令和5年12月28日発行

編集人 照 屋 浩 司

発行所 杏 林 医 学 会

東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学 医学図書館内